

すみよし



《聖 句》

疲れた者、重荷を負う者は、
だれでもわたしのもとに来なさい

休ませてあげよう

わたしは柔和で謙遜な者だから
わたしの軛を負い、わたしに学びなさい
そうすれば、あなたがたは安らぎを得る

マタイによる福音書 11 章 28～29 節
選 : マリア・テレジア MS



[目次](#)

《シリロ神父様の帰国発表挨拶》



毎年この頃、異動させる司祭たちの手紙が来ます。今年も来ました、この間。今年の手紙には私の名前が出ている。私は 4 月 23 日帰国します、と書いてある。

理由は二つあります。ひとつは、この間 9 日、75 歳になりました。そして本当に体を感じているね。「何ですか？」耳が遠くなります、「神父様、昨日言われたやないの。」・・・忘れてしまう。叱られるばかりね。いま 75 歳だから、50%迷惑になりますね。来年は 70%、再来年は 90%迷惑になります。これが

一番大きな理由です。

もう一つの理由は、私がいつも説教の時に話しますね、「お母さんたちは子供に対して、説教を短くして祈る時間を長くしなさい。」同じように司祭も説教を短くしてお祈りを長くしなければならないということを私は本当に信じている。私はこれから皆のために祈りたい、ゆっくり。人生は、勉強する時期がある、働く時期もある、遊ぶ時期もある、祈る時期もある。私はそろそろ祈る時期に入っているから私は静かに皆のために祈りたいと思います。

これが二つの大きな理由ですがもう一つ理由もある、どうしてスペインへ行くかという、私には今現在 8 人の兄弟姉妹がいます。そしてこの兄弟姉妹のおかげで私はここにいる。私のために一生懸命祈り、祈るだけでなく一生懸命やって下さったから、その人々のおかげで私はここにいる。今度は私がお返しをこの兄弟姉妹のために何かをしたい。何も出来ないかもしれないけれど、少なくとも居るだけ、存在だけでみんな満足すると思います。

もうひとつの理由は、あなたたちは、教会でスペイン行って迎えてくれる人がいなかったら困るでしょう、私はちゃんといますからよろしくお願いします。

赤波江さんとタンス神父さんは残っているから、それだけでなくあなたたちはみんな非常にしっかりしているから、私は本当に安心しています。

皆さん今まで本当にいろいろとありがとうございました。そして皆さん、私の諸悪、私の欠点を許してください。

(2 月 12 日ミサの中で)

[目次](#)

《スペインへ帰国にあたって》

シリロ・オラデレ神父 (Fr. Cirilo Orradre)



日本へ来た時、日本語の勉強がむづかしかった。44年間日本で働きましたが、日本語が一番大きな悩みであった。日本に来て最初の10年間は、公に日本語を話すのが恐いので、黙想会などたくさんの事を拒り逃げました。

10年間拒った事によって度々罪を犯しました。そしてその罪を告白しました。

日本に来て10年たってから日本語はうまくなっていないけど、いろいろな会合について拒らなくなった。

もう一つの難しい事は、スペインの親戚の人が亡くなると最後の別れに参加することが出来なかった。このことは苦しかった。もう一つの悲しい事は信者さんの誰かが理由が解らないの

に、3ヶ月、半年も挨拶してくれない事があった。この時は苦しかった。これ以外の44年間は喜びで一杯であった。

もしシリロ神父がきれいな人がいなければ安心して帰国出来る。もし嫌いな人がいるなら早く和解してほしい。

私自身帰国するのは大変悲しい事です、私達は旅人だから、今日、日本のここにて明日は天国に行く。人は必ずいつかは死ぬ。

人生には勉強する時期、働く時、祈る時がある。これからは祈りの時期が来たと思う。私の父は65才になってから仕事を止めて、毎日教会へ2回行って祈っていた。私は父より10年遅れたけれど、父と同じように皆のために祈りたい。宣教について、皆さんは洗礼を受けた事によって宣教師になっている。

皆一致して神の国のために働くように頑張ってもらいたい。

スペインに帰ると、神父の仕事を手伝うが、おもには祈る。

生年月日・1937年2月9日生(75才)

司祭叙階年月日・1962年6月29日



[目次](#)

《目 次》

☆ 聖句	MS	・ ・ ・ ・ ・	2
☆ シリロ神父様の帰国発表挨拶		・ ・ ・ ・ ・	3
☆ スペインへ帰国にあたって	シリロ・オラデレ神父	・ ・ ・ ・ ・	4
☆ 目次		・ ・ ・ ・ ・	5
☆ シリロ神父様お元気で	評議会議長・滝川 晃	・ ・ ・ ・ ・	6
☆ 四旬節黙想会	ルカ・ホルスティンク神父 (フランシスコ会)	・ ・ ・ ・ ・	7
☆ 諏訪司教様よくいらしてくださいました		・ ・ ・ ・ ・	9
☆ 諏訪司教様をお迎えして		・ ・ ・ ・ ・	10
☆ トゥアンさんの助祭・司祭候補者認定式		・ ・ ・ ・ ・	11
☆ 阪神淡路大震災追悼		・ ・ ・ ・ ・	12
☆ 成人式		・ ・ ・ ・ ・	13
☆ シリロ神父様お別れ寄せ書き		・ ・ ・ ・ ・	15
☆ 日本 26 聖人列聖 150 年記念ミサ		・ ・ ・ ・ ・	19
☆ 中高生会活動		・ ・ ・ ・ ・	21
☆ 教会学校遠足 高槻教会		・ ・ ・ ・ ・	22
☆ 市民救命士講習会	谷尻 仁	・ ・ ・ ・ ・	25
☆ 本の紹介		・ ・ ・ ・ ・	26
☆ 信徒動静		・ ・ ・ ・ ・	(27)
☆ 教会日誌、ミサ・講座案内		・ ・ ・ ・ ・	(27)
☆ 後記		・ ・ ・ ・ ・	27

題 字： 山際 純子
表 紙 絵： 田結荘 綾子

《シリロ神父様、お元気で！》

評議会議長 アンтониオ・ジェラルド 滝川 晃

2004 年の春三木館（建て替え前の教会の司祭館・信徒館）からプレハブ（阪神淡路大震災の後建てられた 3 棟の中の一つ）の財務事務所に帰ろうとした時、三木館の扉を開けて「こんにちは！」ととても元気の良い声で挨拶をしながら入ってこられた人と会いました。それがシリロ神父様との最初の出会いでした。

シリロ神父様は野菜作りがお好きなようで神戸中央教会の裏の空き地にトマトやピーマンやキュウリなどをつくっていらっしゃったそうです。また、去年の秋には中央教会や六甲アイランドのオリーブの実を瓶詰めにして、東日本大震災被災者のために役に立てることが出来ないかということで住吉教会のバザーに提供して下さり、神父様の優しく温かい心に触れとても嬉しく思いました。

住吉教会では 10 月の第 3 日曜日にセニョール・デ・ロス・ミラグロス（奇跡の主）というペルーの人たちにとっては最も大切な行事が行われますが、ペルーの人たちと私たちとの唯一の交流の場となっています。この 2, 3 年日本人信徒もだいぶ慣れてきてペルー料理を食べたり一緒に踊ったりして楽しいものになってきました。これもシリロ神父様がペルーの人たちと私たちの話し合いの場をもうけ、お互いの考えを分かち合って何とか滞りなく行事が進行するようにと橋渡し役を一生懸命して下さいましたお陰です。

シリロ神父様はお説教の中で「お母さんたちは子供に対して、説教を短くして祈る時間を長くしなさい。」と祈りの大切さを教えてくださいました。私たちが生きていくうえで困難に出遭った時、「神様はいつも私たちと共にいらっしゃる。その神様を信頼して祈ると神様は助けてくださる。」と話された神父様の言葉を思い出して頑張っていきたいと思います。

「主の祈り」を唱えるときには子どもたちを祭壇の周りに集め、みんな仲良く手をつなぎ輪になっていっしょに唱えられました。

また、よくご家族のことをお話しされていたので、今度スペインのピレネー山脈のふもとの故郷へ帰られて、兄弟姉妹の方たちとゆっくりと余生を楽しまれることはどんなにか嬉しいことでしょう。でも住吉教会の私たちのことはずっと忘れないでいてください。

長い間私たちを導いて下さったシリロ神父様にいつも神様の豊かなお恵みがありますよう心からお祈り致します。



《四 旬 節 黙 想 会》

平成 24 年 3 月 25 日

ルカ・ホルスティンク神父（フランシスコ会）



今回の黙想会はミサ中の 3 箇所（聖書朗読）に合わせて、お話を伺って黙想することになった。

オランダ出身で現在 81 歳のホルスティンク神父様は、京都の「フランシスコの家」（現在記念館となっている）の館長、釜が崎の「ふる里の家」の理事長をつとめておられる。

大きなお声で力強く、ユーモアも交えながら話して下さいました。

「フランシスコの家」は日本 26 聖人となった人たちが住んでいた家で、秀吉の禁教令により捕えられて長崎の処刑場までの長い道程の出発地となった所。聖パウロ三木を保護聖人とする住吉教会とはご縁の深い場所といえる。

『ミサの前に』

「全能の神と兄弟の皆さんに告白します・・・」で始まる祈りは、告解そのもの。ご聖体を頂く前に自分の罪を告白し、心のお掃除をしてきれいな心で黙想会を始めよう。

『第一朗読・エレミヤの予言 31・31～34』

この聖句は、バビロンの捕囚となったユダヤ人への励ましであり、他国で捕虜となった人々に対する励ましの言葉である。オランダ人である私は、第 2 次大戦中に大勢の人々がドイツの捕虜となった事実を知っているだけに、この聖句はよく理解できる。

今、東日本大震災で被害を受けた人たちへの励ましでもある。神は私達に決して罰は与えない。そのルール（律法）を破った結果であると、エレミヤは言う（彼らはこの契約を破った。31・32）。

ルール（律法）はいつも自分の心に留めなければならない。そして常に互いに許し合わなければならない。（人々は隣人どうし、兄弟どうし 31・34）

オランダと日本を較べても国土の様子も言葉も違うけれど、それでもみんな神様の子供だから、許しあいましょう。イエスは十字架上で、相手に報復を求めるのではなく「彼らを許してください」と神に祈られた。

『第 2 朗読・ペテロ使徒への手紙 5・7～9』

イエスは始めから新しい宗教をはじめるつもりではなく、ユダヤ教が少しでも良くなるようにと努めておられた。エルサレムの神殿の境内で商いをしていたユダヤ人を「父の家は祈りの家で商売する所ではない」と、激しく怒って追い払われたことによっても分かる。

「イエスは肉において生きておられたとき」、即ち人となられ、我々人間の悩みを味わうために「激しい叫び声をあげ、涙を流し



ながら 5・7」生きておられた。仲間に裏切られ、十字架に付けられたイエスは「多くの苦しみによって従順を学ばれた」（5・8）

劇的な回心をした聖パウロの言葉に励まされ、泣いてもいいけれど決して落ち込まずに神をあてにして生きること。これを教えるのが教会の役目。

『ヨハネによる福音書 12・20～33』

一番初めにギリシア人という言葉が出てくる。

ギリシア人とは異邦人のこと。彼らは仲間に裏切られ、十字架につけようとされているイエスが「栄光を受ける時がきた」と言われるのはどういう事なのか興味があった。

栄光とはすばらしいこと、自分が望んでいること、一番良いことをいうのだから。

その説明として、「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ・・・12・24～25」という話がされる。私達は種を蒔いて芽が出てくるのを待つ。それは種が死んで芽という新しい命がうまれること。人間も同じ。死はタブー。天国には行きたいけれど死にたくない。

自分が消えていく代わりに、また新しい命が生まれる。これは自然の出来ごと。

私達は死ぬために衰えていく。衰えていくことは恥ではない。誇りを持って衰えていこう。

主の祈りを唱える時、口先だけや形式的にではなく、今ここにいるあなたの中で「み名が聖とされますように」「み国がきますように」と祈りましょう。

人の子となったイエスは貧しい田舎の大工の子となった。そして小さくされたイエスは

パンとなって私達の許に来て下さる。聖体を頂いて、アーメンというのは「私もパンになってもいい。あなたに従います」ということ。召しだしの祈りを唱えながら、ある母親は自分の子供の将来を自分の希望通りに決めていた。これでは意味がない。

今、コンビニがあれば 24 時間なんでも欲しいものが手に入る。神様なんていない。

安いから、便利だからと全て現代の価値観に支配されている。イエスもフランシスコも学校には行っていない。何もない所で神に出会う。

一粒の麦が地に落ちて死ぬ。死は誰もが向かう終着点。死は生による唯一、最高の発明。

古いものが消えて、新しいものが育つ。喜んで後の人達にゆずりましょう。

復活祭までの 2 週間、自分の中にある力を見つけ、復活のイエスを待ちましょう。

（編集部）

[目次](#)

《諏訪司教様よくいらしてくださいました》

2月18日（土）、阪神淡路大震災・復興の時に狭いプレハブの小屋で寝起きしながら私たちと共に働いてくださった諏訪司教様が新しい住吉教会を初めてご訪問くださり、共に祈り、楽しい集いのひとときをすごしてくださいました。



諏訪司教様の祈り

父よ、あなたは大きな震災を通して私たち一人ひとり、そして教会がどのように生きたらいいのか、何を生きたらいいのか、どのように支えあったらいいのか、そして犠牲者の心にどのように応えて行ったらいいのか、沢山のことを私たちに教え、学ばせて下さいました。悲

しみの中にも復活の命を生きる道を備えてくださいました。

今この場にあって、たくさんの人々の悲しみの地に再び立ちながら、そして教会が新たに生きようとしていくこの歩みの、その思いをまた、私たちが大きな被災地に向けて発信しながらそれを一緒に生き、祈り、それを味わいながら新しいまた歩みへとあなたは招いて下さいました。大きな、大きな犠牲と驚きと悲しみの中にありながらたくさんの人々が立ち上がろう、そして生きよう、続けて歩んでいこうという希望を持っています。私たち日本のすべての教区が、教会が、一人一人がたくさんの人々と心を合わせてこの社会のために奉仕しようとしています。

どうぞ、導いて下さい。どんな境遇にあっても、私たちが多くの人々の幸せのために、奉仕できることを、そしてその喜びを分かち合えることを、その中に生きる意味を見出したことを感謝します。

ここに集う一人一人の思いを、祈りを、犠牲を受け入れてください。そしてこの教会、このお御堂が建てられて行った思いをたくさんの人々の中にその心を植え付けられ、それを次の世代にまで豊かに引き継いで行ってもらえるようにと祈ります。

あなたの教会の上に豊かな祝福を、導きを与えて下さい。

私たちの主、イエズス・キリストによってアーメン。



《諏訪司教様をお迎えして》

2 月 19 日（日）11:15～神戸中央教会で神戸中央、六甲、住吉 3 教会合同、英語・日本語によるバイリンガルミサが司教様司式、3 教会の神父様方全員が参加して行われました。

住吉教会からも多数の方々がミサと、その後催された歓迎パーティーに参加。他教会、多国籍の方々と共に司教様を囲んでたくさんのお恵みにあずかりました。



[目次](#)

《トゥアンさんの助祭・司祭候補者認定式》

昨年から住吉教会で生活しておられるトゥアンさんが 3 月 20 日カテドラル小聖堂で認定式を受けられ、新たな一步を踏み出されました。住吉教会の家族として応援いたしましょう。



☆ おめでとうございます ☆



[目次](#)

《阪神淡路大震災追悼》

1 月 17 日 (火) 午前 9 時 30 分から阪神淡路大震災で亡くなられたすべての人のために追悼のミサを捧げました。

阪神淡路大震災追悼の日に祈ります。被災された方々、また家族を亡くされた方々の上に神様の豊かなお恵みがありますように。また亡くなられた方々に永遠の安息がありますように。



[目次](#)

《成 人 式》 1 月 8 日



オマリー神父様の祝辞から

今日は新成人になられた 4 人の方々に生きる力を授けたいと思います。

偉大な洗礼の真理に授かった一人一人が各々の中に生きておられる主と共に、主の望みを現すために自信を持って生きてほしい。

自分自身を神の御子の住まいとし、責任を持って人々のために主イエス・キリストの命を輝かせる生き方をして下さい。

私達共同体もあなた達をずっとささえます。

勇気を持って歩いていって下さい。

主は助けを求める名もない人と、
見捨てられた人を救われる。
貧しくふしあわせな人をあわれみ、
苦しむ人に救いをもたらされる。 (詩篇 72・12, 13)

私は元来、誕生日や新年、入学、卒業などの節目というものを重んじる人間ではありません。しかし二十歳になり、社会的には一人前といわれる成人になった以上は、その節目を越えたことを自覚していきたいと思います。

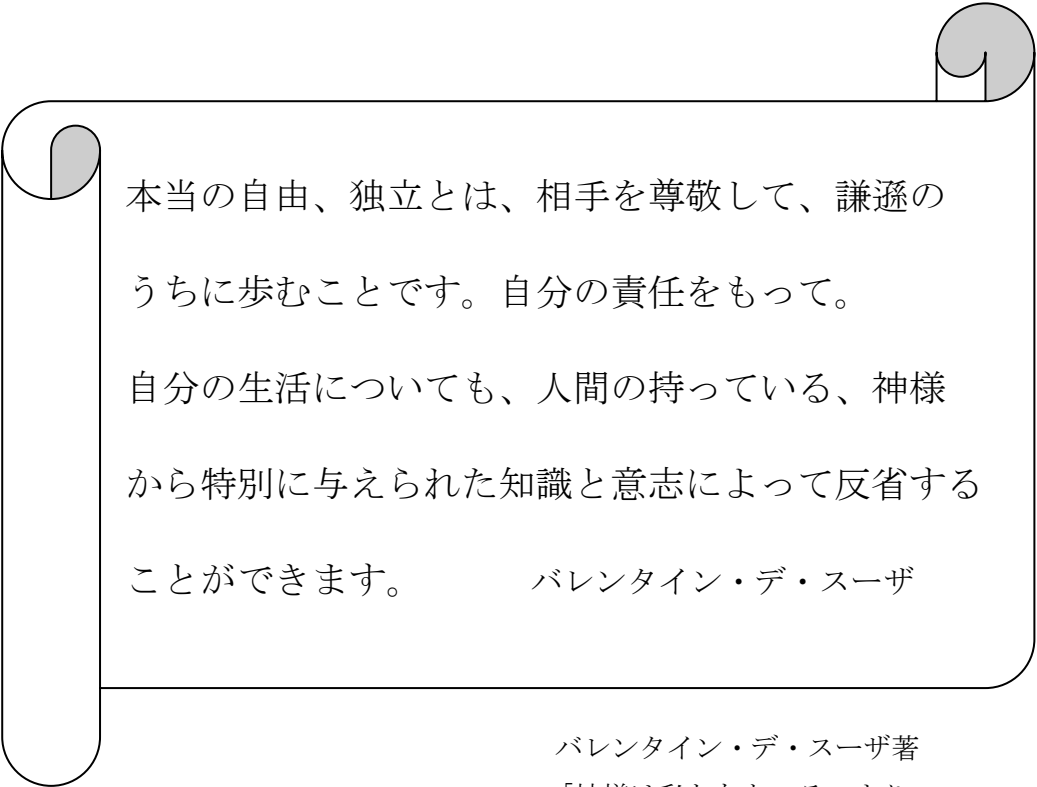
CF

成人になりました。ここまで来るのに様々な人に支えられ、様々な人に迷惑をかけてきたと思います。そのおかげでできた自分の「義」、これに背くことなくこれからの人生を進んで行きます。その中で支えてくださった人、迷惑をおかけした人に少しでも報いることができればいいと思っています。まだまだ未熟な若輩者ですがよろしく願いいたします。

KS

自分はまだ大学生で、成人式を迎えても社会人になったという感覚はよくわからない。でも成人したことで責任はやはり今までよりもたくさん背負うこととなると思う。その責任をしっかりと全うしていけるようにしたい。

KI



本当の自由、独立とは、相手を尊敬して、謙遜のうちに歩むことです。自分の責任をもって。

自分の生活についても、人間の持っている、神様から特別に与えられた知識と意志によって反省することができます。 バレンタイン・デ・スーザ

バレンタイン・デ・スーザ著
「神様は私たちといる」より

[目次](#)



シリロ神父様 ありがとうございます

いつも暖かいお顔を
おやうーいあ言えま
思ッてーソッす
おえまてー又お会
出来る日をたのみに
ソッす

「主の祈り」の時 こどもたちと
一緒に祈って下さったことを忘れません。
ありがとうございます。

神父様の笑顔が大好きでした。
オルガンの時もいつも声かけて下さり
うれしかったです。

いつも喜んでいらっしゃる。祈りのなさい。
シリロ神父様! どんな時でも、感謝しなさい!!
いままでありがとうございました。たまにで
いいのでぜひ主の教会
スペインでも住吉教会や中、神父様もどうそ
中央教会ことを忘れずにいた。お元気でいて下さ
さい。

シリロ神父様

いままで本当にありがとう
ございました。たまにで
いいのでぜひ主の教会
にまた来て下さい。

いつもやさしくお声かけ下さい

有難うございます。韓国旅行や

中高生のカンパで日本海に 郷一諸

(T: 思い出を大切にします。シリロ

神父様へのお祈りも続けます。

和達 家族のためにもお祈り下さ

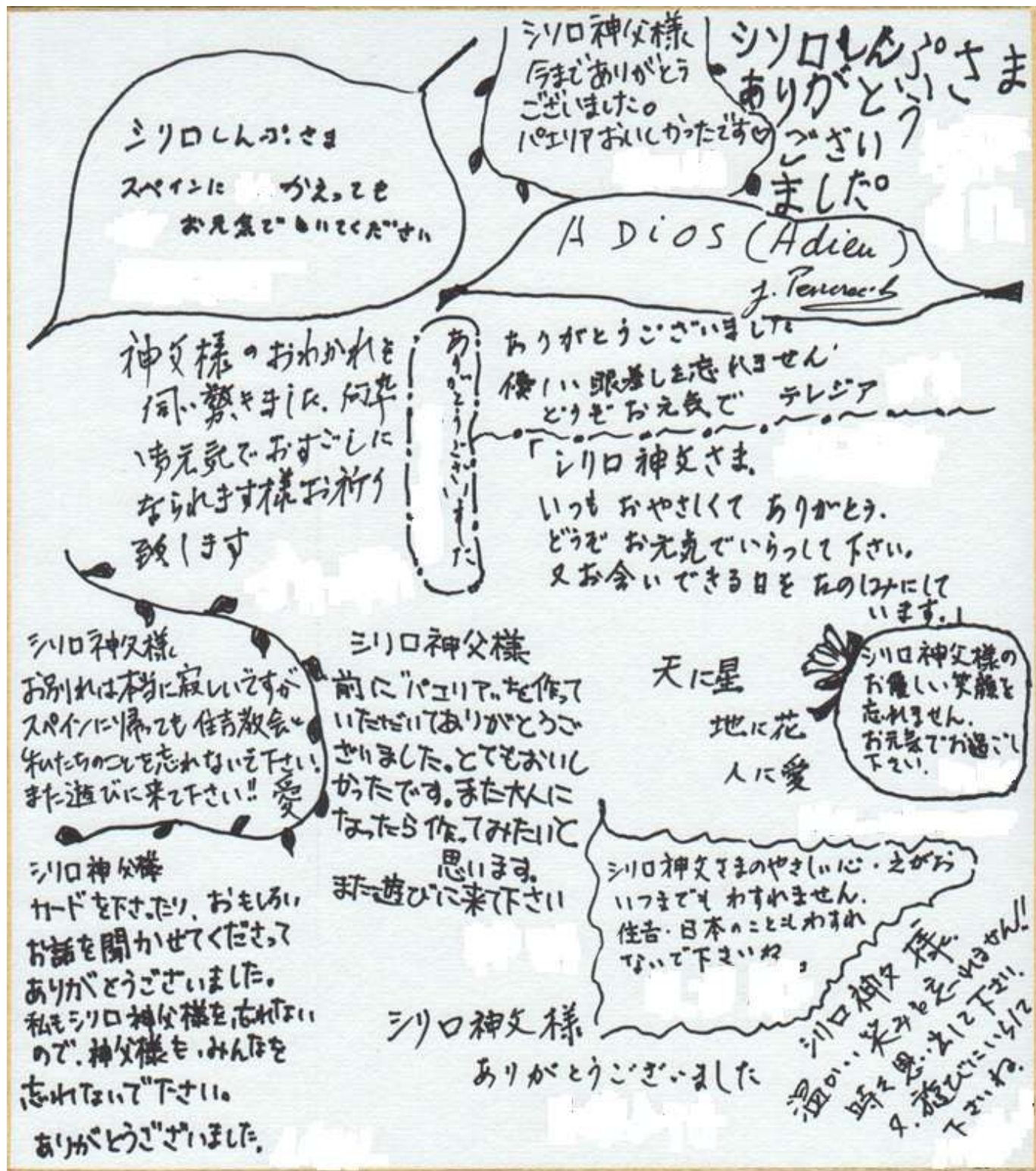
いつかスペインに行く事が出来れば

お会いしたいと思っております。お身体を

お大切にされて下さい。祈りのうに

ミサを子どもたちを衆だんに集められ
年をつらねて 主の祈りも かけられて
あられた神父様のあすかたを
いつか思い出してあげよう。

いつも子ども達に心をかけて下さって。
ありがとうございます。子ども達も神父様が
大好きです。お元気で!
いつも優しく接して下さい。ありがとうございます。
どうぞお元気で!



[目次](#)

《日本 26 聖人列聖 150 年記念ミサ》

列聖 150 年記念の年にあたり、聖堂内ホールに殉教に関する写真を展示しています。

ミサ後有志により 26 聖人殉教聖劇が上演されました。

教会の至宝、松田さん作・演出、神父様はじめ全員ぶっつけ本番、時代劇さながらの衣装で拍手かっさいの熱演でした。

毎年、聖パウロ三木の祝日恒例のおぜんざいパーティーがおこなわれました。

観劇後の楽しいひとときを過ごしました。

聖パウロ
三木





住吉教会劇団？



おぜんざい
おいしいね！！



聖劇！大熱演



《中高生会活動》

大福を作りました！

2 月 12 日、中央教会で大福餅を作りました。

みんなで悪戦苦闘、楽しそうですね。

おいしかったですか？



《教会学校遠足 高槻教会》

2 月 18 日(土)、今日は 26 聖殉教者が守護の聖人である高槻教会に行きました。
温かく歓迎していただきました。高山右近の DVD を鑑賞し、近くにある城跡歴史館にも案内していただいたり、雪の舞う中でしたが、楽しい一日を過ごすことが出来ました。
高槻教会の皆さま、ありがとうございました。



たかつききょうかいには
いろいろのになせかしんじん
みたいでした。

YM





お御堂でお話しを伺います

26 聖人のことを知るために、
博物館へ行ったので、
すごくたのしく、分かりやすかった。

MY





高山右近の DVD 鑑賞



遠足を通して高山右近の
生き方やキリスト教に対しての
考え方がよく分かった。NW

お弁当
いただきます



《市民救命士講習会》

3 月 11 日ミサ後、東灘消防署から来ていただいて市民救命士講習会が開かれました。人形を使った胸骨圧迫や人工呼吸の方法、AED の使い方等を学びました。東日本大震災から 1 年目の今日、各地で追悼の集まりのある大切な日ですが、私たちの周りには助けを必要とする方が沢山おられます。そうした人たちを救うために救急救命の講習会を開きました。私達一人ひとりがその場で何を求められ何をしなければいけないのか、即座に気づき、行動できるように、今日の講習会が役に立てれば幸いです。

谷尻 仁



人工呼吸



胸骨圧迫



救急救命の手順

[目次](#)

《本 の 紹 介》

『 ガリラヤのイエシュー 』

山浦 玄嗣 イー・ピックス出版

ガリラヤの一地方の大工の息子であったイエスが、神様の事をその地方の方言で話されたであろうように、岩手県大船渡市に住む医師・山浦氏（大船渡教会信徒）が、著者の住む気仙地方の人々にイエスの事をケセン語で伝えたい思いで書かれた本です。とてもやさしく分かりやすく書かれています。

4つの福音書を「マタイの伝えた《よきたより》」「マルコの伝えた《よきたより》」「ルカの伝えた《よきたより》」「ヨハネの伝えた《よきたより》」として、山浦氏が原典のギリシャ語から訳されました。（第1弾は「ケセン語訳新約聖書・4福音書」として以前に出版されています。）

同じ大船渡教会信徒のイー・ピックス出版の熊谷雅也氏と共に出版計画され、印刷するまでになっていた版は昨年の大震災の津波で印刷所と共に全て流されました。臨時に建てられた印刷所で又新しくやり直して出版されました。その様子はNHKの「心の時代」で放映され、今年の初めたかとり教会でお二人のお話を聴く集いがありました。）

ガリラヤの一地方で、イエスが集まってくる人々にきっと方言で分かりやすく話されたように、気仙の方言でイエシューが大切な「よきたより」をわかりやすく伝えておられる情景が目につかび、自分もその中にいてやさしい教えを聴いているように思えました。いつも傍に置いてその日の福音の箇所を開いて読み返したくなる本です。



『 父さんの宝物 』

山浦 玄嗣 イー・ピックス出版

山浦氏がまだ子育て真っ最中だった頃、その様子がカトリックの冊子に連載された文章の集冊である。男子6人、女子2人の子供達から日夜飛んでくる聖書の中の難解な出来事に対する質問に、とても分かりやすく話して聞かせ、思いがけない行動にはあくまで自分の信念を貫く接し方、e t c . . . 尊敬するのはどのような時にも子供に対する答えや対応が、頑固なまでの（武士道的精神が貫かれているような）ゆるぎのない、ぶれない信仰に基づいている事です。（その中に常に人間的な優しさとユーモアが隠し味で混ざっていますが・・・）

今この8人の宝物がどのように成長されているかお会いしたくなります。聖書にあるようにきっと宝物が星の数のように増えているのでしょうか。編集者は子育て真っ最中の時にこの本を知らなかったのが残念です。子供や孫育てに今真っ最中の方、二階図書にありますのでお腹を抱えて笑いながら、又少し涙もろくなりながらどうぞお読み下さい。

編集部

[目次](#)

《後 記》

「階上中学といえば防災教育といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私達でした。しかし自然の猛威の前には人間の力はあまりにも無力で私達から大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには惨過ぎるものでした。辛くて悔しくてたまりません。しかし、苦境にあっても天を恨まず、運命に耐えて、助け合って生きて行くことがこれからの私たちの使命です。」

涙を拭って、唇を噛みしめながら読まれた（友人 3 人を津波で失ったという）気仙沼市の中学生の卒業式の答辞に心打たれてから一年が過ぎました。

きっと、誰もがこの一年、被災者の事を思わない日は無く、心の中で知らない人の為に祈ったのではないかと思います。

彼の地に良き春が訪れますように。

シリロ神父様、司祭生活の殆どを日本の信徒の為に捧げて下さりありがとうございました。

とても・とても寂しくなりますが我慢しなければ！！

ご健康とご多幸をお祈り致します。

Tk

主イエスキリストのご復活おめでとうございます。寒い冬から花の咲く心躍る季節。今年に住吉教会にご縁の深いベロー神父様・シリロ神父様が帰国なさるという忘れられない年となりました。特にシリロ神父様はこの春までミサで聖書の勉強でユーモア溢れるお話で導いて下さいました。又、子供たちがお好きで主の祈りには手をつないで祭壇を囲み、教会学校のキャンプでも楽しく遊ぶ優しい神父様。私たちは寂しいですがスペインでは首を長くして帰国を待っていらっしゃることでしょう。これからは笑顔と特製パエリアの味を皆思い出すでしょう。お元気でお過ごしください。

Im

「すみよし」 第186 号

発行日 : 2012. 4. 8
発行責任者 : 赤波江豊神父
編集 : 広報チーム
発行 : 神戸市東灘区住吉宮町
2-18-23
カトリック住吉教会
TEL : 078-851-2756
FAX : 078-842-3380
<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>
製版・印刷 : 信徒有志



[目次](#)